



亀っ子だよ

第26号

— 亀崎小学校 校長通信 —

2020年9月4日

放送委員がお昼の放送にひと工夫

1学期のことです。給食を食べていると、お昼の放送が流れてきました。すると「今日はクイズを出します。3択なので、これだと思ふ番号を手で示してください。いきます…」と言って、クイズが何問か放送から聞こえてきました。放送が終わると、私は思わず放送室へ行って「この放送は、放送委員会が流しているの？今は、コロナウイルス感染拡大防止のため、しゃべらずに前を向いて食べているので、こうやって給食の時間が少しでも楽しくなるようにと考えてくれることは、とってもうれしい」と話しました。そして、「このクイズはコロナウイルスバージョンなの？おしゃべりをしなくても答えられるようになってるね」と尋ねると「毎年行っているクイズです。2学期になっても続きます」と答えてくれました。先日紹介した総務委員の活躍と同じように、今の状況の中でも楽しく生活できるようにと工夫してくれたように私は感じました。子どもたちのアイデアを生かして、学校生活に少しでも潤いが生まれてこればと思っています。子どもたちには負けてられません。



図工の作品を見に来てね

これも1学期のことです。子どもたちが帰るころ横断歩道に立っていると、男の子が「4年生の『ゆめクジャク』見に来てね」と話しに来ました。「『ゆめクジャク』見たよ。羽がきれいで素敵だね」と答えると「そうですね。気に入ってるんだ」と話してくれました。「とっても上手なできあがりだから、家に持ち帰ったらどこかに飾っておいてね」と言うと「分かりました」と答えて家に向かって歩いて行きました。マーブリングなど、絵の具で彩色するときの様々な技法を使った1枚1枚の羽根が色とりどりに貼り合わせてある作品です。この男の子はよっぽど出来映えに満足したのか、私のところに話しに来てくれました。私にとっても、とてもうれしい出来事でした。

夏休みの運動場で

夏休みの暑い日でした。親子3人が、亀崎小のグラウンドでサッカーを楽しんでいました。お父さんがセンタリングを上げて、中で子どもたちがシュートをしていました。私は持って帰りたいものがあったので職員室へ入り、鍵を閉めて帰ろうとしました。すると、サッカーをしていた親子3人が、グラウンド整備をしていました。暑い中、きちんとしている親子にとっても感心するとともに、サッカーに取り組む真剣さを感じました。

(株) ダイセイ倉庫運輸様が本を寄贈してくださいました

9月2日(水) (株) ダイセイ倉庫運輸様が、「1分間速音読ドリル」を100冊、半田市に寄贈してくださいました。衣浦物流センター20周年の記念事業として地元の子どもたちに何かできることは…との思いで寄贈してくださいました。衣浦物流センターが州の崎町にあるので、亀崎小が代表して受け取りました。代表取締役社長はじめ3名の方が亀崎小にいらして、本を直接手渡してくださいました。手渡していただく前に社長の吉田様が次のような話をしてくださいました。「我が社の一番の目的は、会社を存続させることだと考えています。現在、我が社では500名の方が働いています。その人が4人家族だとすると、2000名の方の命を会社が預かっていることとなります。会社が倒れてしまうと、2000名の方が路頭に迷ってしまいます。だから、会社を存続させることが一番大切だと考えているのです。会社を存続させるためには、『売り手よし』『買い手よし』『世間よし』の『三方よし』の精神が大切だと思っています。我が社は、社員の人生を創る会社でありたいと考えています」と。一企業を背負う人の言葉は重く、強い覚悟を感じるものでした。私にとって、本はもちろんです、吉田社長のお話もとても素晴らしいプレゼントでした。

♣ 子育てアラカルト ♣

【0点教育】

どんなことも一面だけでなく多面的に見てみる。すると、いいところと悪いところが必ず見つかる。それがわかった上で、いいところにスポットライトを当ててやるのだ。「0点教育」とは「加点法」でものごとを見ていく(評価する)ことだ。

【エピソード】

英国に勤務していたとき、知人の娘さんがロンドンのバレエ学校に入学するので保証人を頼まれた。18歳、ベルギーの舞踏祭で銀賞をとった新進バレリーナである。半年ほどして留學生活の感想を聞いたら、面白い答えが返ってきた。

「何でも0点から始まるんですよ。0点教育って本当に楽しい」

彼女が言うには日本のバレエ教育はいつも減点法だったそうだ。先生の描いた「100点満点」の踊り方から「ここが悪い」「あそこでミスした」と減点されていく。

ところが、英国のバレエ学校ではいつも「0点」から始まり、「ここがよかった」「あそこが新しいセンスを感じさせた」とプラスしていく加点法だという。

「だから、思い切り大きく踊れる気がするんです。ミスしちゃいけないと思うと小さくなるけど、ここでアピールしようと思うと大胆な踊りになる。性格までのびのびしちゃったみたい。」

引き算の日本と足し算の英国というわけだ。思い当たる節は確かにある。勉強でもスポーツでも、日本では「頑張れ」という。「かたくなに張れ」

「気を引き締めてミスをするな」という意味だ。同じことを英語では「テイク・イット・イージー (Take it easy)」という。「気楽に行け」である。

買い物をして、引き算でおつりを出すのではなく、足し算方式だ。懐に10ポンド札を持ち、8ポンドのライターを買うと、店員はまずライターを出して「これが8ポンド」、そして1ポンド硬貨を1枚ずつ「9ポンド、10ポンド」と払った金額まで足していく。こうやられると、ライターという8ポンドの財産に現金2ポンドで懐の合計は同じ10ポンドのまま、出費したという感じがしないのだ。今の世の中、景気が悪い話ばかり。足し算の発送で買い物でもしますか。

(中日新聞「編集局デスク」より)



【心に刻む言葉】 あら探しをすると、注意ばかりするはめになる。

いいところ探しをすると、ほめることができる。

(ある教育者のひとり言 より)